児島ジーンズストリート
（児島ジーンズストリート協同組合）
岡山県倉敷市

インバウンド　地域課題対応　若手・女性　生産性向上

ポイント グローカル時代の地域づくり～地場産業と商店街の強力コラボによる「ジーンズストリート」の誕生。地域資源の価値最大化を目指して～

基本データ

所在地	岡山県倉敷市児島味野
人口	約 48 万人（倉敷市）
電話 /FAX	086-472-4450 / 086-474-3506
URL	http://jeans-street.com
会員数	35 名
店舗数	35 店舗（小売業 30 店、飲食業４店、その他１店）
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	国内観光客、外国人観光客 /30 歳代、40 歳代

商店街概要

児島ジーンズストリートが形成されている地域は、昭和 30 ～ 40 年代において町の中心として縫製工場に勤める女性たちが日用品や買回り品を求め連日多くの人で賑わっていたが、商店主の高齢化や後継者問題、郊外型大型店の台頭などにより次第に衰退していった。

そこで、地場産業であるジーンズによるまちづくり「児島ジーンズストリート構想」を平成 21 年に策定。協議会を経て、平成 25 年に正式に「児島ジーンズストリート協同組合」を設立した。

ＪＲ児島駅より約 1km の場所に位置し、年間来街者数は約 15 万人。近隣には国指定重要文化財「旧野崎家住宅」や「児島市民交流センター」がある。

取組の背景
「児島ジーンズストリート構想」の船出

約 50 年前に児島地域で最初の日本製ジーンズが誕生し、これまでに地場メーカー主導での「ジーンズの聖地」としての情報発信などに取り組んできた。しかし、実際にはジーンズを販売する店舗が少なく、来街者から「ジーンズを買う場所がない」「ジーンズの街が感じられない」などの声が多く寄せられていた。

地域住民や既存の店舗からも「シャッターを開けたい」、「この街をみんなでなんとかしよう！」などの声が長い間多く集まっていたが、特に方向性も定まらず、地域全体での取組ができない状況が続いていた。その間、道路美装化などの事業は行えていたが、直接的な集客には至っていなかった。

そこで平成 17 年、「児島まちづくり委員会」を設立。数年におよぶ議論を経て、現在児島ジーンズストリートの代表理事である眞鍋氏の強烈なリーダーシップのもと、商業者・メーカー・倉敷市・学校・児島商工会議所のメンバーにより「児島ジーンズストリート構想」を策定し、「ジーンズを愛する人たちが集まる街に」というビジョンを掲げ、商店街復興・繊維産業復興のモデルケースを目指すこととなった。

取組の内容
新旧が一体となって「ジーンズの聖地」へ

「児島ジーンズストリート構想」に従い、まず児島のジーンズメーカーの販売店をストリートに集積させることを第一目標に掲げ、空き店舗対策から実行することとなった。具体的には空き店舗の調査と出店者誘致を同時に実施。調査はすべての空き店舗を1軒ずつ交渉しながら行い、中には商店の奥や２階が住居部分となっていることから後ろ向きな意見、また構想に対してなかなか理解していただけない高齢者の方々の店舗もあり、何度も訪問を重ねるといった粘り強い交渉が求められた。

出店者誘致の面でも、寂れたシャッター商店街にリスクを冒してまで出店する方は皆無という状況であり、そこで出店リスクを少しでも軽減させるべく、行政の補助制度の活用による所有者との家賃交渉を行った。

さらに、商工会議所など関係各所が全面的にＰＲするなど初めの出店者誘致に対する情報発信に大きな力を必要とした。

ジーンズストリートの景観

ジーンズショップが集積

加えて、ストリート全体のジーンズによるブランディング向上で集客を目指し、様々なソフト事業・ハード事業を実施。ソフト事業としては、児島ならではの

取組として、毎年４月にジーンズの即売市「稲妻デニムフェス」、10 月にはデニム（藍・青色）を使用した「KOJIMA BLUE International Art Festival」という芸術祭、２月にはデニム生地で雛人形を制作・展示する「ＤＥＮＩＭ oh! 雛」を開催。学生と連携したファッションショーや既存商店街と連携した事業も行っている。

「稲妻デニムフェス」で
ジーンズメーカーが集結

「ＤＥＮＩＭ oh! 雛」
デニム生地の雛人形

ハード事業としては、商店街内の道路をジーンズ色に舗装し、看板やタペストリーの設置など次々に実現。また、鉄道会社・バス会社・タクシー会社・ホテルなど民間企業もこれらの動きに協調し、それぞれが主体的にジーンズのまちづくりに沿った取組を実施していったことで地域が大きく変化し「ジーンズの街」としてのブランディングが進んでいった。

現在では、既存店主たちがストリートに立ち、観光客に道案内をしたり、昔の商店街の歴史を語ったりと、まさに新旧が一体となった新しい街が誕生した。全ては児島に人を呼びたい、地域に活気・笑顔を取り戻したいと、構想の実現に向けて活動を行った結果である。

取組の成果

35 店舗の新規出店を達成、さらなる発展へ

児島の地場産業の一つであるジーンズを核とした取組でストリートをブランディングさせたことで、成果として７年間で、ジーンズショップ 26 店舗のほか、雑貨店や飲食店も合わせて 35 店舗の新規出店を達成することができた。また、イベント時だけでなく平常時であっても来街者数は伸び続け、飲食店を中心に既存店にも効果が波及し、ストリート全体として回遊性が増してきた。

一定の効果は現れているが、空き店舗はいまだ存在することを踏まえ、今後さらなる構想の実現に向けて、残る空き店舗における出店者誘致活動の継続や空き店舗化を防止するための既存店の強化も合わせて行っていく。

そのためにも、月に一度開催している定例会で、取組に対する課題の抽出、情報の共有・発信などを議論し、地域をあげて PDCA を回していく。現状に満足することなく改善・改良を行っていき、商店街のさらなる「未来」についてのビジョン作成、研修などを開催していく予定だ。

実施体制

30 代から 40 代の組合員が中心となり、事業に応じて既存店舗、倉敷市、学校、児島商工会議所、おかみさん会などの任意団体などと連携した実施体制が組まれている。

特に緊密な関係であるのは商工会議所であり、組合の代表理事が商工会議所の副会頭でもあるため、事業全体の企画・運営・検証などを常に伴走しながら事業を推進している。また、まちづくりという視点から、市とは空き店舗対策や基盤整備といった主にハード事業を中心に一体となって取り組んでいる。

加えて、既存店舗には事業実施時の周辺地域住民や空き店舗対策における地権者交渉とのつなぎ役を担ってもらっている。おかみさん会や地元服飾学校の生徒とはイベント事業での協力や意見交換を行うなど積極的かつ柔軟な協力体制を築いている。

キーパーソンからのコメント

児島ジーンズストリート
協同組合
理事長　眞鍋 寿男

児島を世界のジーンズの一大拠点に

ジーンズという分かりやすい商材を使い、街全体を巻き込んで色々アピールしてきましたが、まだ道半ばといった所です。ただジーンズ関連店舗を増やすだけではなく、体験型施設や土産物販売施設などを誘致し、ここでしか買えないモノや味わえないコトといった、他では手に入らないものが買える通りにしたいなと思い描いています。海外のイベントや展示会を招致し世界の人達がこの街に目がけて来るような仕掛けを構築して、世界的なジーンズの一大拠点にするのが私の夢です。

起業家が多い街をいかに束ねるか

江戸時代から現在に至るまで、主力産業の盛衰の度に新しい方向へ転換し、チャレンジを繰り返して成功をおさめてきた産地であり、起業の機運が高い街です。それゆえに各企業の足並みがなかなか揃わず、街全体を盛り上げようと取り組んでいても賛同を得られるケースはそう多くありません。土日のみの営業とする店舗に対して平日も営業してもらえるよう引き続き呼びかけていきたいと思います。